

# 北 潟 湖

発行：北潟湖の自然再生に関する協議会

事務局：あわら市市民生活部生活環境課  
TEL：0776-73-8018  
E-mail：seikatsu@city.awara.lg.jp

## <ニュースの内容>

- ・北潟湖自然再生協議会 設立総会
- ・第5回 北潟湖フォーラム

## 第5回 北潟湖フォーラム

～北潟湖の恵みを再発見し、未来に遺そう～

北潟湖で暮らす人たちは、自然から多くの恵みを受けるとともに、手をかけその恵みを大事に守ってきました。この先人たちが大切に守ってきた自然は、私たちが生きていくために、自然環境の保全、回復、回復に努め、取り戻した自然を未来に受け継いでいく必要があります。

北潟湖では、平成26年に北潟湖(川)再生に関する協議会を設立し、地域の関係団体、市民、農業者、農業者、観光者、企業が協働して北潟湖の自然再生に関する協議会を設立しました。今後さらに自然環境の回復に努め、北潟湖(川)再生協議会を設立いたします。皆さまのご参加をよりお待ちしております。

開催日時：平成30年11月24日(土) 午前10時から午後3時まで

開催場所：福井県立若原青年の家 (あわら市北潟133-227 電話：0776-73-1003)

主催：北潟湖の自然再生に関する協議会、北潟湖自然再生協議会準備会  
共催：あわら市 後援：福井県

【お問い合わせ】北潟湖の自然再生に関する協議会事務局  
あわら市市民生活部生活環境課 環境グループ TEL 0776-73-8018

## 北潟湖自然再生協議会設立総会



・設立総会 80名参加



・青海会長 ・佐々木市長

## <参加状況>

- ・設立総会 80名
- ・フォーラム参加 計143名
- 北潟湖の恵み試食会
- ・参加ありがとうございました。
- [検索]**北潟湖自然再生協議会

## ～北潟湖フォーラムプログラム～

- 第1部 (10:00～12:00)**
- 基調講演「自然再生で北潟湖を元気に！」 10:00～10:50  
環境省自然環境計画課長 植田明浩氏
- 休 憩 10:50～11:00
- 北潟湖自然再生協議会設立総会(議事次第は下記) 11:00～12:00
- 昼 食 (12:00～13:30)**
- ～北潟湖の恵み試食会～
- ①しじみ汁 ②富津魚焼(さつまいも)焼き手 ※昼食に「おにぎり」を用意します
- 第2部 (13:30～15:00)**
- 報告会(各30分)
1. 北潟湖から学んだこと、そして大切にしたいこと (北潟小学校児童6年生)
  2. 北潟湖の環境と息づく水辺の鳥の変化 (日本野鳥の会福井県副代表 頼頭五十夫氏)
  3. 北潟湖の生物多様性の価値と保全上の課題 (福井県自然保護センター 所長 松村俊幸氏)
- ポスター展示(常設)**
- 研究者・活動団体・学生等の北潟湖に関する活動等展示

## ～北潟湖自然再生協議会設立総会開催概要～

- 「議事次第」
1. 開会
  2. 来賓挨拶(あわら市長、福井県、環境省)
  3. 設立趣旨の説明
  4. 規約の承認
  5. 役員選出
  6. 報告・協議
    - ①平成30年度活動計画
    - ②北潟湖自然再生協議会全体構想(経過報告)
  7. 閉会

## <開会挨拶・来賓挨拶の概要>

■設立準備会会長 青海 忠久氏  
・未来の子供たちへ、北潟湖の豊かな自然を遺していくことは、今を生きる者の責務と考える。地域が元気になっていくことが実現には不可欠なので力を合わせて進めていきたい。ご協力をお願いします。

■あわら市長 佐々木 康男氏  
・全国26番目、県2番目に法定協議会が設立されたことは大変意義深い。自然豊かで、四季を通じて風光明媚な北潟湖の自然を保全・再生し、観光などの地域資源としても次の世代に引き継いでいくことを責務と考えている。

■福井県安全環境部長 清水 英男氏  
・北潟湖は、越前加賀海岸国定公園の重要な地域であり、自然再生プロジェクトは大変重要だと考えている。一層の支援をしたい。

■環境省中部地方環境事務所 野生生物課長 酒向 貴子氏  
・人と自然が織りなしてきた自然を取り戻すことは大変ですが、自然と共生する地域づくりを目指して頑張ってください。

他の来賓の皆様 ・県議 笹岡 一彦氏  
・市会議長 森 之嗣氏  
・市議 八木 秀雄氏

## 基調講演

「自然再生で北潟湖を元気に！」  
環境省自然環境計画課長 植田明浩氏



## ■講演要旨

・自然再生には思い入れがあり、15年前になるが、農水・国土・環境の3省が連携して、壊れた自然を地域毎に議論し、何をするかの計画を決め、地域づくりの一つとして考えた。

## <キーワード>

- ①多様な主体 ②地域主導 ③専門家  
「やってみて」→「見直す」が大切。

## <具体策>

- ★順応的実施(モニタリング)
- ★学習・教育(子供たち)
- ★産業との連携

## <協議会参加のメリット>

- ①意見の共有
  - ②助言、法に基づく活動
  - ③相乗効果
  - ④全国ネットワーク
  - ⑤アイデアが生まれる
- ・北潟湖は全国で26番目に登場  
・全国の例(釧路湿原、中海、榎野川阿蘇、里地里山で竹に注目した取り組みなどが紹介された。)
- ・地域循環の共生観が重要

## [議事]

議長：北浦 博憲氏(法定協議会準備委員)

- 1: 設立趣旨説明
- 2: 規約承認
- 3: 会長：青海 忠久氏

副会長：組頭五十夫氏 ・佐賀繁次氏  
拍手多数で承認された。

## [報告・協議]

- 1: 北潟湖自然再生協議会全体構想報告
- 2: 平成30年度活動計画(案)

～ 北潟湖の恵み試食会 ～  
シジミ汁・富津金時・ブルーベリージャム



ポスター展示(北潟湖に関する活動)  
研究者・研究機関・環境保護団体・学生



**【展示団体】**・あわらの自然を愛する会 ・北潟漁業協同組合  
・北潟歴史探訪の会 ・あわら市エコ市民会議 ・NPO法人グリーンエール  
・福井県里山里海湖研究所・福岡大学 ・日本野鳥の会福井県  
・北潟湖生きもの応援隊 ・北潟湖ハクチョウを見守る会  
・県立大学海洋生物資源臨海研究センター ・福井県自然保護センター  
・観音川を護る会 ※諸団体の活動が紹介されました。

報告会 (要旨)

① 「北潟湖から学んだこと、そして大切にしたいこと」

- ・報告: 北潟小学校6年生児童
- ・コーディネーター: あわらの自然を愛する会 会長 河田 勝治氏



- ・生息環境整備事業をはじめとし、小学校の自然観察会などを実施している。県域準絶滅危惧種のコウホネやオオマルバノホロシなどもあり、保護していく必要がある。(河田)
- ・北潟湖の形状や水深などを答えるクイズからスタート
- ・赤尾湿地学習会での体験や絶滅危惧種などの紹介。それらを守るためには、環境をくずさない、環境に良くない薬などを減らす、ゴミを減らすことが大切。どんな生きものにとっても過ごしやすい北潟湖にしていきたい。
- ・北潟湖のクリーンアップ大作戦などしているが、まだ汚い。汚さない工夫をしながら北潟湖の自然を遺していきたい。
- ・コウノトリが飛来するような環境にしたい。そのために調査実行し、豊かな自然を遺していきたい。地元の皆様方のより一層の支援をお願いします。(河田)

③ 「北潟湖の生物多様性の価値と保全上の問題」

福井県自然保護センター 所長 松村 俊幸氏

北潟湖の生物多様性の価値は、周辺の谷津環境にもある。鳥類調査では、中池見湿地がラムサール条約湿地に登録された際の要件となった「ノジコ」が、北潟湖周辺でも渡っていることが確認された。また県域絶滅危惧Ⅰ類のヒクイナやヨシゴイも確認された。

谷津内のため池では、(トラフトンボ、アオヤンマ、ミヤケミズムシなどの)県内有数の多様な水生昆虫相が維持されていた。しかし一方で、ウシガエルなどの侵略的な外来種の増殖が凄まじく、在来の水生昆虫相が崩壊しつつあることも判明した。

特に、当地からの消滅が県域絶滅となるオグマサナエは壊滅状態であった。ため池内のウシガエルの駆除を積極的に行い、低密度にする必要がある。

自然再生協議会の目標は、湿地の良好な生態系を維持しつつ、その恵みを持続的に利用(賢明な利用)する社会の構築にある。そのためには、人の都合を完全に優先させるのではなく、生き物たちの生息環境を少し残す心配り、つまり人と生き物が共に寄り添って生きる「共生」の理念の構築が欠かせない。

世界的に最も危機に瀕している淡水生態系の保全・再生のためには、乾かす農法を完全に遂行するのではなく、わずかでも農地内に水を残す心配りが大変重要である。耕作放棄地は湛水させ、水生生物の生息環境を創出させるとともに、環境教育の場として活用することにより、水難事故の恐れなく、未来を担う子供たちに、生物多様性と共生することの意味を伝えることができる。

② 「北潟湖の環境と生息する水辺の鳥の変化」 日本野鳥の会福井県副代表 組頭五十夫氏

- ・ここ10年では、10～14種のカモ類、最大5,600羽観察されている。
- ・2014年度～2016年度には、キンクロハジロやホシハジロ等の潜水ガモやオオバンが爆発的に増加した。
- ・近年、ヤマセミ、オンドリ、カイツブリ等は、観察例が減少もしくは見られない。オオヨシキリは今年、繁殖したと考えられる。
- ・ヒシは2015年には湖内から消滅したが、2018年に一部復活した。
- ・外来種のフジツボやコウロエンカワヒバリガイ等が爆発的に増殖し潜水カモ等の餌の一部となった。
- ・これらの水辺の鳥の生息変化は、湖内の塩分濃度上昇し、湖内の生物相が変化したことが一因ではないかと思われる。